

## 留学生別科とは何か ②

### —朝日大学留学生別科の8年間の生活指導—

#### What is a Japanese Language and Culture Course ② Eight-year life guidance for Asahi University Japanese Language and Culture Course

梶原綾乃

#### 要旨

異文化適応において、留学生が日本に適応するまでに最低1年はかかると言われて  
いる。人間関係や環境などほぼゼロから始まる留學生活を支援するための研究は非常  
に少ない。そこで今回、正統的周辺参加理論を用いた学習環境のデザインとしての生  
活指導を紹介する。留学生が起こす問題の多くは、生活指導が通知とルーティン活動  
だけになっているためだと考え、改めて学内の行事や規則に意味を見出し、その過程で  
「正統性(所属意識)」と「文化的透明性」「アクセスすること」を付与することに留意した。  
その8年間の実践活動を報告する。

**キーワード:** 生活指導、異文化適応、学習のデザイン、正統的周辺参加、文化的透明性

## 1. 日本人に対する教育と留学生教育の違い

日本における一般的な教育と留学生教育には、大きな違いがある。まず留学生は外国人であり、来日までに母国で培われた文化的価値観があり、日本の文化価値観を知らないという点である。子供の頃から日本にいるなら当然わかっているであろうことも、場合によっては全く通じない。また留学生は12年以上の修業年数が求められるので、ほぼ成人ではあるが、家族は母国に在籍するため学校が保証人の立場になる。万一、病気や事故、事件などに巻き込まれた場合、学校が保護者の代わりに対応しなければならない。

非常に当たり前のことではあるが、この問題は本格的に留学生を受け入れ始めた1954年から国会でも問題になるほどの無視できない大きな課題である。(山本 2014、川上 2016)

この現実を把握したうえで、留学生の生活指導は、日本語教育と同様に論ずるべきであると考え、留学生の生活指導を論じるにあたり、異文化適応に関する理論について言及しておくたい。

## 2. 異文化適応過程とマズローの欲求段階説と生活指導

井上・鈴木(1994)は、「異文化への適応上のストレスが大きく、人格発達の課題がめまぐるしく変化するのは、留学直後より1年間の時期である。」と示すように、留学直後より1年間、つまり予備教育機関での生活指導は、その後の留学生生活を大きく左右する。

異文化適応に関する理論として、リスガード(1955)の「Uカーブ理論」、オバーグ(1960)の「カルチャーショック」、P.アドラー(1970)の「異文化適応理論」などは日本語教育能力検定試験にも出題されるほど有名である。実際に「異文化理解」の授業で簡単なアンケートをとってみると、ほとんどの留学生がこの理論に共感を示す。日本の生活に慣れる過程で思い当たることが多いという。その点で妥当な仮説だと言える。

	異文化適応仮説	留学生の心理過程
1	接触期(蜜月期)	興奮と幸福感(観光感覚、物珍しい時期/緊張)
2	自己崩壊期	戸惑いと混乱(母国との違い)
3	自己再統合期	異文化の拒絶
4	自律期	異文化への理解とあきらめ
5	独立期	文化の相違点、類似点を楽しむことができる

表1 P.アドラーの異文化適応仮説

さらに、来日直後の留学生が日本の社会に適応する過程に合う理論として、マズローの欲求段階説を挙げたい。表2が示すように、留学生が生活に慣れる過程にはほぼ近いと思われる。留学は、慣れ親しんだ家族や友人、環境から離れ文化の違う国で全くのゼロから始める行為であるからだ。

	欲求段階	留学生の生活例
1	生理欲求	気候が違うため服がない、味付け、禁忌のため食べられない
2	安全欲求	物価の違い、アルバイト、病院利用、移動手段の確保
3	親和欲求	母語で話せる友人、日本語の先生、クラスメイト、アルバイト先
4	承認欲求	日本語で話せる友人、学業や成績、進路
5	統合欲求	個人的、具体的な夢(進学、就職等)

表2 マズローの欲求段階説

生活例は筆者作成

実際、これらの欲求が満たされないと感じるとき、自己崩壊が起こる。母国でなら問題なくできたこと(買い物、銀行手続き等)が、留学先ではうまくいかないという無力感や、物価の違いによりアルバイトを始めたものの学業との両立が疎かになったり、逆にアルバイトで予想以上の収入を得たために金銭感覚が狂ったり、さらに学費納入時期になると期日までにお金が用意できないと抑うつ状態になったりするなど、とにかく留学生活が安定するまでには、最低1年は必要である。生活に慣れないために病気になったり、事故に遭ったりすることも多い。その都度、教職員は対応していくことになる。生活指導をする教職員は、毎年留学生が適応していく過程を見極めながら、適宜介入していかなければならない。

異文化適応理論に基づいて、専門職としての留学生アドバイザーの必要性を横田・白土(2001)は訴えているが、実際は、専門職として機能している大学は非常に少ない。(春口 2021) 多くは、職員や日本語教師、あるいは学生ボランティアでまかなわれているのが現状である。

また異文化間教育の間で先行研究はあるものの主に心理学の視点による事例研究、個人対応的なものが多い。(花見 1998、大橋 2000) 問題が発生したときの対応が中心に書かれており、予防的な視点での生活指導の研究は見られない。そこで今回提案するのが正統的周辺参加理論を応用した生活指導である。

### 3. 正統的周辺参加理論とは何か～文化的人工物と文化的透明性／ブラックボックス

そもそも「正統的周辺参加理論」は教育形態でも手法でもない。人の学習の過程を示す一つの視座である。従来の認知科学で扱われたような学習(知識を個人の内化に置く)ではなく、学習者は社会(ここでは実践共同体)に参加するものであり、その参加の過程でヒトやコト、モノとのやりとり(観察や交渉、あるいは行為)から意味が生成され、学習が生起するとみなす。また学習を伴う活動は、その社会の一員としてのアイデンティティを形成し、周辺参加から十全参加(古参者、親方)へと移行するまでのプロセスを学習の過程としている。

学習者が実践共同体に参加する過程を学習の過程ととらえるなら、留学生が来日して日本で生活することも、日本という実践共同体に参加していく過程であり、学習過程である。

レイヴ・ウェンガー(1991)やウェンガー(1990)は、多くの実践共同体を観察、記録し、新参者が何をもって学習し、あるいは何によって学習が阻まれているかを明らかにした。レイヴはリベリアの仕立屋において、新参者が衣服の仕上げの段階から作業が許され、徐々に全工程をさかのぼることで、いかに前段階が現在の段階に貢献しているかを考える無言の機会を提供していることを示した。またウェンガーは保険会社の保険請求処理担当者らが顧客のクレームに対応できなかったのは、保険請求処理担当者が常に保険料を算出するのに使用していたCOBシートが何のために作られ、使われているのか知らなかったためであり、組織のネットワークにアクセスできなかったために起こったと説いている。

つまり、正統的周辺参加理論とは、状況に埋め込まれたヒト、モノ、コト(これを総称して文化的人工物とよぶ)にアクセスしながら、現在進行している活動が何のために行われているかを知り、さらに学びと実践を促し、共同体で一人前になっていく過程なのである。そして、その学習の過程において、ヒト(古参者、親方、上司、顧客等)、コト(役割、任務)、モノ(職場、COBシート)にアクセスできるかどうか、学習の促進に影響を及ぼす。例えば、リベリアの仕立屋では、全ての工程(コト)にアクセスできたことで、より学習が促進された。新参者(見習い職人)はその職場において、正当な成員として認められ、「文化的人工物(ここでは工程作業の観察、作業等)」にアクセスができ、「文化的透明性」が保証されていたのである。他方、保険請求処理担当者は、COBシート(モノ)によって、作業は簡易化されたが、他部署との連携を阻まれ、保険請求に関するクレームに対応できなかった。それはCOBシートが「ブラックボックス」と化し、業務・学習に支障を来した例である。

#### 4. 教育のデザインと学習のデザイン

レイヴら(1991)は、学習の過程は、学習環境としてデザインすることができると述べ、従来の教育におけるカリキュラムデザインと学習におけるカリキュラムデザインを比較している。(表3)

教育のカリキュラム		学習のカリキュラム
限られた時間 (授業時間)	いつ	実践共同体に参加している期間
限られた場所 (教室)	どこ	学習者が参加する環境 (実践共同体)
効率的に厳選された内容	何を	状況に埋め込まれたもの (文化的人工物)
教師が教える	どうやって	共同体が参加を認める
聞いて、考えて、答える	学習者が すること	観察し、アクセスし、実践する
答えた内容で理解度を測り 評価する	評価	共同体の一員としてさらに認める (十全参加)
学習者の知識や技能の獲得や 能力を向上させる一連の方法を 開発すること	デザイン	学習者がリソース、ネットワーク、協力 体制を組織化することを、サポートす る仕組みを創出すること
通常授業	具体例	留学生活、アルバイト、クラブ活動

表3 教授法のデザインと学習環境のデザイン

レイヴ・ウェンガー(1991)、上野・ソーヤー(2001)を参考に筆者作成

従来の教授法は、教育のカリキュラムの視点であり、教師が中心である。しかし、学習のカリキュラムは、教師も実践共同体の一員にすぎない。教師ではなく学習者とその環境に視点を置いている。例えば教師が何をしても学習者に変化がない場合、教師の技術力量の問題だけでなく、学習者を取り巻く状況に埋め込まれたものをも対象に考えなければならないということである。

上野・ソーヤー(2001)が指摘するように、正統的周辺参加理論は、ラトゥール(2019)のアクター・ネットワーク理論(以下 ANT)にも関係がある。ANTでは人間のみならず様々な社会的事象や物、技術をもアクター(actor)とみなす。アクター自体は独立し本質的な特性を持つのではなく、お互いに不可分なネットワークを形成している。アクター同士が(ヒトであれモノであれ、技術であれ)作用することで変化し、全体に影響を及ぼすと考える。つまり、ANTも正統的周辺参加理論も、学習過程を研究する際に現れる学生、教員、規則、ノート、教室、アルバイト、カメラなど全てのものが、人工物(ヒト・コト・モノ)であり、アクターなのである。

加藤・鈴木(2001)は、学習環境をデザインするにおいて、デザインの過程を三つのレベルに整理し、それぞれのデザイン上の課題を挙げている。

ヒト(組織)のデザイン	組織、制度、規則、行動規範、価値基準、人的関係
コト(活動)のデザイン	活動内容、目的、動機付け、達成目標、必然性、賞罰、インセンティブ、行動のモデル、出来事(イベント)、活動の(時間的)場
モノ(道具)のデザイン	器具・道具、教育メディア、インフラ、機能、ヒューマンインタフェース、意匠、ドキュメント(コンテンツ)、活動の(空間的)場

表4 デザインの三つのレベル(加藤・鈴木 2001)

加藤らは、これらのデザインを行う順序として、以下の順番を勧めている。

- ① 学びのコミュニティがどうあってほしいかという具体的イメージを描く(ヒト)
- ② そこで行われる実践活動を計画する(コト)
- ③ それに必要な道具や教育メディアを考える(モノ)

「…原則的にヒト・コト・モノの順をとることで、設計上最も重要なコンセプトである『コミュニティがどうあるべきか』ということが明確になり、以後のデザインの具体化の指針となる。それにより、『コミュニティをデザインする』ことへの志向がデザインのすべての過程をとおして貫かれるようになる」(加藤・鈴木 2001、P.179)

学習をデザインするというが新しく何かを創り出すというわけではない。正統的周辺参加理論は、状況に埋め込まれたものをどう見るか、という理論である。この三つのレベルは、今まで当たり前に行っていたこと(規則や行事、活動)を、問い直し再認識するためのものである。

## 5. 朝日大学留学生別科 2014年～2020年までの試み

朝日大学には、筆者が2014年に着任した当時から、留学生を専門に対応する部署がない。大学全体の学生数から見て留学生は1割にも満たないからであろう。来日後直から別科修了まで留学生に対応するのは別科の教員とパートのみである。留学生に何かがあれば、大学の他部署の職員と連携して対応する。これは、外国人留学生を日本人学生と同等に扱うという立場で、江淵(1991)が指摘する「統合主義」の一つの形である。対応する部署がないため、留学生の問題は大学全体で共有しやすいという利点はあるが、他方直接対応する教員の負担は大きいという欠点がある。逆に、国際交流課などの留学生に特化した部署(分離主義)は、人員が確保され個人の負担は軽減されるが、留学生に関わる問題は全てその部署に回され蝸壺化するという欠点がある。

2014年着任時、朝日大学における留学生の印象は、お世辞にもいいというものではなかった。留学生が日本社会に適応するまでの様々な問題を大学全体で共有していたためであった。また他学部の教員の中には、留学生別科の存在すら知らない者もいた。それでも朝日大学の上部層は、海外での視察や推薦機関との協定締結など、別科の留学生を確保するために動いていた。

別科の教員は筆者のほかに半年前に着任した教員1名と産休で不在の教員1名の計3名のみだった。お互い研究者で専門が違うこともあり、今回の実践共同体のデザインは筆者個人で行い、他の教員には適宜参加協力してもらうことにした。それゆえ、実証的な結果は期待できないことは、開始時期より覚悟している。

まずデザインレベル①の「学びのコミュニティがどうあってほしいか」というコンセプトは、「**来てよかった朝日大学留学生別科**」である。留学生の多くは、母国で留学手続きを行うため、留学先の学校をじっくり検討して決めることはできない。様々な縁があって、予備教育機関の一つとして選んでもらった以上、後悔はさせたくない。朝日大学留学生別科に来てよかったと思えたなら、それは日本に来てよかったとほぼ同義である。在籍する留学生も修了した留学生も「朝日大学留学生別科に来てよかった」という実践共同体を作りたい、それが2014年着任当時の思いであった。

次のデザインレベル②「そこで行われる実践活動を計画する」の段階で少々戸惑った。以前、梶原(2007)では、愛媛県宇和島市で留学生と地元の共同体との交流をデザインした経験があったが、朝日大学がある瑞穂市には、観光地としての資源がほとんどなく、地元との交流もない。リソースとして学外は期待できないため、学内に絞ることにした。留学生別科は予備教育機関だが、日本語学校にはないリソースが多くある。大学の施設であり、大学の教職員であり、大学の日本人学生である。彼らとの交流を定期的に行い、日本に来た実感を覚えてもらいたいと考えた。それが梶原(2015、2016、2019)である。

最後の③「それに必要な道具や教育メディアを考える」で一番大きな役割を担ったのが、カメラと SNS である。

### カメラの機能、役割～正統性を保証する機能

カメラは本来人物や風景を記録保存するものである。しかしカメラという道具は、他者のまなざしをも意味する。カメラを向けられることは、自分という存在が認められたということであり、撮影された自分の姿は、留学している自分である。それを別科の SNS にアップされるということは、別科という実践共同体の一員として認められたことを意味するのである。もちろん、あまり写るのを好まない留学生もいる。その留学生にはできるだけ写さない約束をするが、集合写真は後ろの方でいいから参加してほしいと伝えている。来日直後から留学生の様子を具に撮影することにしていたため、写真が苦手だった留学生も少しずつカメラのまなざしになれ、終了時期には普通に集合写真の真ん中に写るようになっていく。実際、計8回行われたインタビュープロジェクトでは、報告会の後に全員で集合写真を撮ることになっていたが、毎回報告会は誰一人欠席もなく、参加者全員がインタビュープロジェクトの表紙を飾ることとなった。カメラという道具には、留学生を実践共同体の正統的な成員であることを保証する機能がある。

### SNS の活用～ネットワーク、交流する場の提供

SNS、ここではベトナム人留学生が多く利用している Facebook も、新たなネットワークと交流の場を提供した。別科公式の Facebook では前述の留学生の写真を定期的にアップしていたが、他方、筆者個人の Facebook (友人公開限定) も大いに活用している。例えば、最近、電話契約をしない留学生が増えており、SNS 経由で電話や文字メッセージを送ることが常識化しつつある。だが、この文字メッセージは、聞きまちがいや「言った／言わない」の誤解を解消した。日本語のレベル問わず、翻訳アプリを使えば、ほぼ意思の疎通が可能である。(但し、翻訳されることを想定して比較的簡易な日本語を使用している。) また留学生にとって対面や電話は、緊張するので億劫になりがちだが、文字メッセージは、ある程度の時間差を容認してくれる。教職員側も、必ず伝えないといけない連絡事項をひとまず送って、相手の反応を待つだけでいい。また、進路や学費等で悩む留学生のカウンセリングにも活用できる。直接言いにくいことも、こちらから有益な情報を流したのち、時間をかけて待てば、何らかの反応が返ってくる。返事がなかったとしても、メッセージを読んだかどうかはわかる。それをひたすら待ちながら、彼らの本音を探る。

頻繁にやりとりをすれば、彼らの文字メッセージは自然な会話体が変わってくる。だから、こちらではできるだけ丁寧体で文字メッセージを送るようにしている。声掛けの挨拶、話を縮めるときの言葉、それらを毎回読むうちに、学生たちも自然に使うようになるからである。

万が一留学生がトラブルに巻き込まれたときは、電話機能を使って連絡してくる。もちろん Wi-Fi がないところでは難しいという問題はありますが、学生たちの連絡はもっぱら Facebook の Messenger 機能を活用している。

さらに、筆者の Facebook では定期的に大学の景色や日々の様子をアップしている。別科を修了した学生たちも、なつかしさからか、イネスタンプを押してくれる。筆者も彼らが誕生日のとき、落ち込んだとき、結婚したとき、赤ちゃんが生まれたとき、事あるごとに軽い気持ちで、イネスタンプを押す。それだけで留学生との関係を維持することができる。留学生担当の職員の中には、プライベートと留学生の連絡用を使い分けている方もいるが、連絡用に特化すると、そのアカウントに人間味が感じられなくなる。単なる連絡は結果的に学校側の要求ばかりになり、留学生は次第に読まなくなる。プライベートも連絡用も一緒にすることで、アカウントに人間味を持たせる。梶原(2019)のように、学園祭の打ち合わせを行ったり、JLPT 対策のグループを作って、そこで出題や解説をすることもできる。SNS は学校とは違う、ある種の空間的な場を提供する。

## 6. 朝日大学留学生別科の行事と「キャリアデザイン」授業概要

2014年9月から、1週間に1回総合演習の時間を「キャリアデザイン」という名目で設けた。「キャリアデザイン」では、大学からの連絡事項を伝えると同時に、入学期の学生には大学生活に適應する指導を、卒業期にはそれぞれの進路先に向けての面接指導の時間として使われた。そしてJLPTも終わり進路も決まった期末には、別科の全学生が一緒になって活動する時間を設けた。今回は、筆者が入学期のキャリアデザインを担当した時期(2015年、2018年)のシラバスの一部と年間のスケジュールをもとに、活動を報告する。(表5)留学生の生活指導を報告するにあたり、「正統性」と「文化的透明性」、「アクセスすること」に重点を置いた。

### ① 留学生の正統性を保証する(所属意識、帰属感)

縁あって朝日大学留学生別科に来た留学生たちである。彼らが安心して学ぶ(生理・安全欲求を満たす)ためだけではなく、朝日大学の一員であることを常に提示することを心掛けた。

前述の写真撮影はもちろんのこと、キャリアデザインでは入学直後から学歌の練習を行っている。それは、新入生全員が来日した後に行われる「新入生歓迎パーティー」のためである。筆者が着任して感動したことが、このパーティーである。留学生のために会場や料理が用意され、学長をはじめ各学部の学部長、各部署の部長や課長が留学生のために参加して下さるからだ。ともすれば、堅苦しい印象だけが残りがちなイベントではあるが「大学のトップの方々が留学生のために、時間と場所を設けてくれたこと」を学生にしっかり伝え、できるだけ学長や学部長とお話するようにと勧める。お話はできないまでも、並んで写真を撮ることで、学長や学部長に親近感を覚え、共同体に正統的に所属したことが実感できる。そこに「朝日大学の学歌」を歌うのである。日本語が通じなくても、習った歌を一生懸命歌うことで学長や学部長も一緒に口ずさんでくれる。その一体感を演出するためである。

12月には、国際交流祭と称したクリスマスパーティーが留学生のために開かれる。そこでは料理だけでなくビンゴゲームで数々の賞品が用意されている。これらはもともと朝日大学にあった行事であるが、このパーティーも、朝日大学に所属していることを実感できる貴重な機会である。

パーティー終了後、パーティーを準備してくれた職員や食堂の従業員に対して、留学生全体でお礼を言う機会を作っている。これは後述の「文化的透明性」にも通じるが、留学生が大学で学べる背景には、多くの日本人スタッフが存在していることを可視化し、アクセス(お礼)させるためである。

### ② 文化的透明性

生活指導において問題がある留学生の多くは、社会や大学の仕組みを知らないと考えられる。なまじアルバイトで親よりも収入があるため、一人前になったような錯覚に陥りやすい。入学期のキャリアデザインでは、そのような留学生たちに日本での生活に関するルールやマナーに関して、説教ではなく、留学生にとって有益な情報としてできるだけ丁寧に意味や背景を楽しく説明することを心がけている。

来日直後にもある程度伝えているが、その時期は異文化適応理論における接触期(蜜月期)で、興奮している状態の上に情報過多で記憶に残らない。そこで日本の生活に慣れて落ち着いてきた頃に、再度行っている。なぜ、守らなければならないのか、守らないとどのような不利益が被るのか、それらを具体的な例や先輩たちの失敗談(当然、匿名)を交えながら、ルールの意味を説明している。

例えば、入学期に学生部主催で行われるオリエンテーションでは、地元の警察や消防署から話に来て下さる。最初は普通の背広姿であったが「可能であれば制服を着てきてほしい」と学生部

委員時代にお願いしたことがある。背広姿の男性が話すより、制服を着て話して下さるだけで、学生の反応も違う。本当の警察官、消防士が来ているのだと実感することで、話の内容に関心を抱く。

定期テストの仕組みも中間テストが近づいたときに行う。何のためのテストか、その成績が進路先に影響することなどを具体的に伝える。

また学費納入についての話も非常に重要である。教員によっては、お金の話を忌み嫌う人もいるであろうが、日本社会に適応するためには避けては通れない問題だと考える。ただ払え、というのではなく、払い方、払えない時のルールを指導すべきなのである。後期の進学時期になると、別科の学費だけでなく、進学先の合格発表の数週間後には入学金等を納入しなければならない。しかも、別科の1年コースの留学生の場合、10月と4月に後期の学費納入期があり、それを払い終えて2か月後には、受験で入学金を納めなければならなくなる。そのためにも、長期休暇前にどれぐらいのお金が必要であるか、それぞれ考えさせる。

そして、どうしても学費納入が間に合わない場合、どうすればいいかも伝える。異文化適応の項でも伝えたが、来日後、金銭感覚が狂う留学生は少なくない。アルバイトをすれば何とかなんと高を括っている間に、期限が過ぎてしまう。そのためにも「期限前に相談すること」を徹底し、経理課の場所を教え、支払い計画を用意して窓口で何と伝えればいいかを指導する。まるで延納を勧めているように見えるかもしれないが、一度手続きを覚えると、経理課とのアクセスが生まれ、自主的に相談するようになる。それは、その後社会に出たときも役に立つはずである。お金がないときにどうすればいいか、その方法を指導することも、文化的透明性の一つである。

また毎週キャリアデザインでは、学籍番号と出席率を「口頭」で発表している。名前を出すと、個人情報の問題もある。だが、学籍番号と出席率だけを発表すると、全員が自分の情報だけを聞き取ろうと必死になる。ディクテーションの練習にもなるし、自分の出席を管理する習慣にもつながる。

### ③ アクセスすること

「アクセスする」とは、ただ教えるだけではなく、何らかの課題を与え、実際にやってみる機会を設けることである。

オリエンテーションなど一方向の講義形式の場合、特に警察や消防署の方の話は、留学生には難しい。そこで聞き取りのタスク(図1)を与えたり、説明の後にクイズ形式のテストを行ったりしている。もし登壇者がタスクシートの設問の話をしなければ、留学生から手を挙げて質問するように勧める。タスクシートを埋めるために質問することで、登壇者とのやりとりが生まれる。

また、学内施設を案内するだけではなく、実際にアクセスをさせてみる。例えば、図書館利用では、グループになって、本の題名だけを与え、どのグループが一番早く本を探し出せるか競争をさせる。すると、さっきまで漠然と聞いていた検索方法などを改めて職員に質問したり、PCで検索し始めたりする。実際に探させることで図書館をより身近に感じることになる。

そして、JLPT試験も終え、長期休暇を前にして留学生も緊張が緩む時期に、インタビュープロジェクトや動画作成プロジェクトを行う。上級レベルや先輩とグループになって、活動をすることで、古参者との交流も生まれ、日本語が上手な先輩のロールモデルを内面化することになる。筆者が留学生の就職問題(梶原 2021)に携わるようになったのも、このロールモデルを多様化させ提示したいからである。

## 7. 研究者、指導者としての立ち位置

この論文における筆者は、学生を指導する教員であり、論文として記録する研究者であり、実践共同体の一員であり、アクターである。



この8年間の活動を通して、筆者自身も学内の組織や人間関係、施設に働きかけてきた。2015年から2019年まで、学内の学生部委員会に所属し、留学生の生活指導に関して発言も行ってきた。それは、留学生別科を学内に周知宣伝する行為であり、また留学生の立場を代弁する立場であった。またプロジェクトワークやイベントなどを行う際は、他学部や他部署の人間に参加の依頼を行ったことで、個人的に学内の人間関係も広がった。生活指導をする教職員も、実は留学生と同じく実践共同体に正統的周辺参加しているのである。またラトウルによると、論文にまとめる筆者は、この複雑なアクター・ネットワークを「翻訳」する一アクターでもある。

## 8. コロナ以降の問題点、実践研究の問題点と希望

この8年間の活動は、ごく普通の留学生の生活指導である。特段目新しいことはしていない。ただ日常当たり前にあるヒト、コト、モノ(行事等)の認識を改めてみることに、デザインすることに、正統的周辺参加理論の真骨頂がある。世の中にある行事やルール、人や物には、それぞれ意味がある。状況に埋め込まれているため、うっかり見過ごしてしまいがちではあるが、学習者は来日したときから、常に学び続けているのである。例えば、それが教員の口ぐせであったり、アルバイトで綺麗にニンジンを剥くことであったり、と、生活をする中で彼らは常に学んでいるのである。

ただ教職員側からルーティン業務で連絡事項のように伝えて終わりではなく、彼らがどのように学ぶのか、どうすれば学びが楽しくなるのか、それを考えることが、学習環境のデザインである。

筆者は実践研究を専門としているが、実践研究は再現性も実証性も低いため、非常に時間をかけて発表することになっている。今回、過去8年間の正統的周辺参加理論を用いた生活指導をまとめようと考えたのは、やはり2020年からのコロナ問題があったからである。感染を防ぐために、何度も対面からオンライン授業になった。2022年3月に修了する別科生は、コロナのために2か月も遅れて入国したため、入学式や新入生歓迎パーティー等のイベントに参加することがない。また、来日した直後からオンライン授業が行われ、やっと対面になって学内案内をしようとした矢先に、第4波、第5波が広がり、結果的に施設利用など行うことができなかった。コロナによるオンライン授業では、留学生の正統的周辺参加をデザインすることがなかなかできなかった。そのせいか、一部の留学生は未だに学長や他学部の存在も知らない。別科の教員だけで留学生別科が運営されていると思っているところがある。ただ前述のSNSの存在はいい意味でも悪い意味でも非常に大きくなった。コロナ感染で混乱していたころ、複数の留学生からの Messenger 対応を迫られた。症状の不安を訴えるもの、スケジュールの確認をするもの、電気が止まったと苦情を入れるもの、等々。文字入力だから同時に複数対応できるのである。

2022年4月に新入生を迎え入れる予定ではあるが、半期上の先輩たちは3月に全員修了してしまう。先輩がいない留学生別科。実践共同体としても、一からのやり直しを余儀なくされている。アフターコロナにおけるオンライン上の正統的周辺参加理論が目下の課題だと言える。だからこそ、この機会を利用してまとめようと思った次第である。

今回は、筆者が赴任してからの8年間で行った生活指導の一部を紹介した。最後に、実証結果にはならないが、別件でアンケートをした別科修了生の声を紹介する。(図2)2014年から2017年までのベトナム人修了生102名を対象にアンケートを、Facebookを通してお願いした。そのうち43名の修了生とで数年ぶりにやりとりをすることができた。筆者のFacebookには、ベトナムのみならず他国の留学生も含め、日本で働く者、帰国した者、結婚した者、母になった者、あるいは別科を途中で辞めた者や帰国困難ビザでアルバイトしながら日本に滞在している者など進路は様々ではあるが、連絡を取り合っている。こうしたアンケートを行うと回答してくれる修了生がいることは、少なくとも朝日大学留学生別科に「来てよかった」と思ってくれていると解釈したい。

来日1年間の学生指導の問題は、多くの要素を孕んでいる。それを留学生個人の問題として矮

小化すると対応する人間だけが疲弊する。まずは適応段階を把握し、留学生を取り巻く状況に目を配り、阻害する要因を1つ1つ取り除くことができれば、留学生たちは安心して学び、別科を飛び立っていく。予備教育機関は、そういうところであってほしいと願う。

#### 参考文献

- 井上孝代・鈴木康明(1994)「留学生とカウンセリング(3)－留学初年度の生活指導におけるカウンセリング活動の意義－」東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 20:127-142
- 上野直樹・ソーヤーりえこ(2006)「文化と状況の学習 実践、言語、人工物へのアクセスのデザイン」凡人社
- 江淵一公(1991)「在日留学生と異文化間教育」異文化間教育5「特集 在日留学生と異文化接触」アカデミア出版会 4-20
- 大橋敏子(2008)「外国人留学生のメンタルヘルスと危機介入」京都大学学術出版会
- 田中共子(2000)「留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル」ナカニシヤ出版
- 花見慎子(1998)「留学生の危機的状況にどのように対応するか」1994年度 JAFSA 助成研究報告書
- 春口淳一(2021)「小規模大学の留学生政策 エンロール・マネジメントと日本語教育の可能性」早稲田大学出版部
- 梶原綾乃(2008)「留学生の社会参加と宇和島市における国際交流の可能性—2004年～2006年 愛媛女子短期大学国際交流コース活動報告」愛媛女子短期大学紀要(第18号)
- 梶原綾乃(2015)「プロジェクトワークと正統的周辺参加理論—留学生が大学という実践共同体に参加するために」朝日大学留学生別科紀要(第12号)
- 梶原綾乃(2016)「日本語能力混成クラスにおける異文化理解の授業—日本人に話しかける力の養成—」朝日大学留学生別科紀要(第13号)
- 梶原綾乃(2018)「朝日大学留学生別科生活実態調査」朝日大学留学生別科紀要(第15号)
- 梶原綾乃(2019)「外国人留学生による学園祭模擬店運営～SNSを話し合いの場として利用する～」朝日大学留学生別科紀要(第16号)
- 梶原綾乃(2021)「朝日大学における外国人留学生の就職活動に関する一考察」朝日大学留学生別科紀要(第18号)
- 加藤浩・鈴木栄幸(2001)「7章 協同学習環境のための社会的デザイン」『認知的道具のデザイン』pp.176-209, 金子書房
- 川上尚恵(2016)「戦後の日本国内の外国人留学生—1950～60年代の「留学生教育問題」を中心として」神戸大学留学生センター紀要 22 21-40
- ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー(1993)「状況に埋め込まれた学習 正統的周辺参加」(佐伯胖訳)産業図書
- マズローA.H.(1981)「人間性の心理学 モチベーションとパーソナリティ(改訂新版)」(小口忠彦訳)産業能率大学出版部
- ブリュノ・ラトゥール(2019)「社会的なものを組みなおす アクター・ネットワーク理論入門」(伊藤嘉高訳)法政大学出版局
- 八代京子・町恵理子・小池浩子・磯貝友子(1998)「異文化トレーニング ボーダーレス社会を生きる」三修社
- 山本冴里(2014)「戦後の日本と日本語教育」くろしお出版
- 横田雅弘・白土悟(2001)「留学生アドバイジング 学習・生活・心理をいかに支援するか」ナカニシヤ出版
- Adler, P. S. (1975). The transitional experience: An alternative view of culture shock. *Journal of Humanistic Psychology*, 15, 13-23
- Lysgaard, S. (1955). Adjustment in a foreign society: Norwegian Fulbright grantees visiting the United States. *International Social Science Bulletin*, 7, 45-51.
- Oberg (1960). Culture Shock, *Bobbs-Merrill Series in Social Sciences*. 1-9
- Wenger, E(1990) Toward a theory of cultural transparency : elements of a social discourse of the visible and the invisible *Thesis (Ph. D.)—Univeristy of California, Irvine.*

時期	活動項目	ねらい①	ねらい②	備考
常時	写真を撮る	正統性の保証	別科への帰属感	記録、思い出づくり ※写ることを拒む学生への対応
常時	SNSでの発信	正統性の保証	別科への帰属感	広報活動、アルバム作成にもなる
常時	Messenger機能の活用	文化的透明性 アクセス方法	やり取りの可視化	交渉窓口、日本語の翻訳機能、何度も読み返せる、カウンセリング・指導の記録
4月 10月	オリエンテーション	文化的透明性 アクセス方法	規則の意味、理解	警察官や消防署にはできるだけ制服や消火器などを提示してもらう
4月 10月	学歌練習	正統性の保証		新歓パーティーに向けて
4月 10月	学内案内	正統性の保証 文化的透明性 アクセス方法	実際にやってみる	購買部で文具を買う 図書館で本を借りてみる、 情報教育研究センターでPC使う
10月	学園祭出店	正統性の保証 文化的透明性 アクセス方法		出店までの過程、協力店との交渉 調理、接客、金銭の計算 学部生との交流 梶原(2018)
5月 11月	新入生歓迎パーティー 国際交流祭 (12月)	正統性の保証 文化的透明性 アクセス方法	学長や学部長との出会い	大学の成員として歓迎されている実感 別科以外の多くの教職員の存在
5月 11月	定期テスト、 評価、再試験	文化的透明性	制度の意味、理解	テスト評価の仕組み
5月 11月	学費の説明	文化的透明性 アクセス方法		経理課という存在。延納手続き、 締切前に相談すること、計画性
6月 12月	別科修了生との交流	古参者との交流	進学 の 経験談	キャリアデザイン ロールモデル提示
7月 1月	インタビュー プロジェクト (授業活動)	正統性の保証 文化的透明性 アクセス方法	他学部、 他部署の 教職員と の出会い	レベル、入学期関係なく、別科全員で行うイベント 梶原(2015)
1月	学内案内 動画作成 (授業活動)		学内施設	レベル、入学期関係なく、別科全員で行うイベント 未発表

表5 キャリアデザイン入学クラスの活動 (太線は別科の年間行事。)

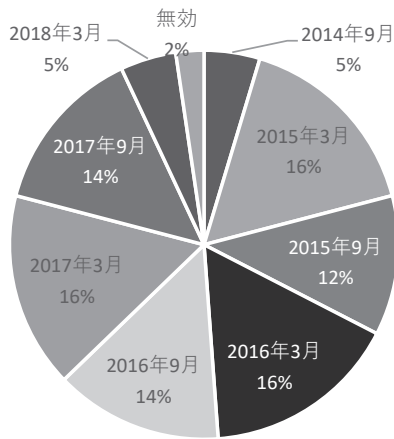
## 留学生オリエンテーション

はなし き こた か  
話を聞いて、答えを書きましょう。

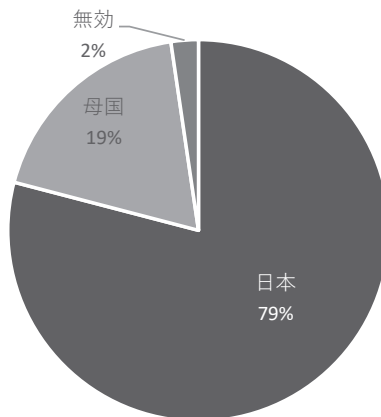
1. 日本にほんで生活せいかつして、こわいことなんは 何なんですか。
2. 「119」とは、何なんですか。
3. 「火事かじ」が起きたら、最初さいしょに何なんをしますか。
4. 「事故じこ」が起きたら、最初さいしょに何なんをしますか。
5. 「地震じしん」が起きたら、最初さいしょに何なんをしますか。
6. 自転車じてんしゃに乗る時のとき、どうしますか。
- ( ○ ) ① 自転車じてんしゃは、車道しゃどうの左側ひだりがわを走はしります。
- ( × ) ② お酒さけを飲のんで、自転車じてんしゃに乗のってもいいです。 ③
- (   ) ③ 二人ふたりの乗のりしてもいいです。
- (   ) ④ 電話でんわをしながら、自転車じてんしゃに乗のってもいいです。 ④
- (   ) ⑤ 並ならんで走はしってもいいです。 ⑤
7. あなたは、ありますか。
- ① 在留カードざいりゅう                      はい      ・      いいえ
- ② 国民健康保険証こくみんけんこうほけんしょう                      はい      ・      いいえ
- ③ 資格外活動許可しかくがいかつどうきょか                      はい      ・      いいえ



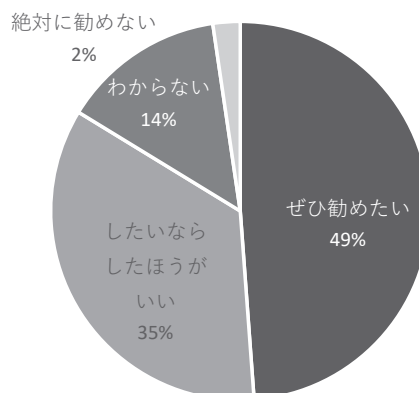
図1 オリエンテーションのタスクシート



いつ別科を修了しましたか。



今、どこに住んでいますか



友人や家族、自分の子どもに留学を勧めるか

図2 留学生別科修了生のアンケート内容(一部)